

さらに、以上の結果に基づき、立地を巡る各主体へのヒアリング調査を行うことで人と人、人と場所とのどのような関係性のもと施設の立地が成り立つかを客観的なモデルで示した。

調査の結果、地域に根付く景観や機能（意味の体系）を生かした物件の活用法が不動産権利者にとって最も合理的であるとともに、近隣住民と価値の枠組みを共有できる方法であることが分かった。地域の「外側」に位置付けられる生活困窮者の居住空間を見出すためには、地域の「内側」の主体が持つ場所の意味の体系の延長上に施設が設置されるべきである。ふるさとの会は、賃貸により施設を運営することでこれを実現し、場所・人双方を含んだ地域との関係性のもとにある居住空間を創出したといえる。

グローバル文化学環 2009 年度 卒業研究 (石塚・熊谷指導分)

〈石塚主指導〉

天野真由子：グローバリゼーションにおけるディ
ズニー化現象——アルバイト経験をもとに労働
管理の面から——

大西彬代：路上観察学とは何か

グエン・フォン・アン、宋恩愛：「アジア系外国人」
とはだれか？——池袋に在住する外国人を事例
として——

篠崎ゆい：子ども向けメディアが描くアフリカ・
イメージ——児童文学が描く〈発展途上地域〉
の表象——

鈴木結加里：エスニックメディアにみる「在中日
本人」——北京市の日系フリープレスの事例か
ら——

関口玲美：建築物の保存と解体を巡って——旧長
崎刑務所の解体と地域住民の認識——

田中結衣：沖縄メディアから見る内外のまなざし
——秘められた抵抗と自身への模索——

〈熊谷主指導〉

板垣千明：山梨県のワイン——グローバリゼー
ションの中の地場産業の行方——

浦野希美：Hawaiian Hula から Japanese Hula へ
索 洋：「非正規滞在者」をめぐる議論と現実
——在日外国人からの視点——

成定 優：アメリカと日本の卵子提供——生殖補
助医療と女性の身体——

* グローバル文化学環卒業生の卒業研究要旨は、
2010年3月刊行予定の『グローバル文化学環
会報』第2号に掲載されます。